

# ユニットケアの長所

- ユニットが小規模単位なので、在宅の生活に近づけていける。
- 時間の束縛がないので、入居者のペースで生活できる。
- 時間がゆっくりで、入居者ひとりひとりに関わる時間が長い。
- ひとりひとりと、より深く関われることで、職員は、入居者の毎日の変化にも敏感になれるほか、入居者にも安心感をもっていただける。
- 入居者のことが、より良く理解できることから、その方に合った介護ができ、問題行動を減らすことができるほか、入居者と職員の間、信頼関係が生まれる。
- 入浴は、入居者本位で入っている。
- ひとりひとりの入浴時間が長く、ゆったりできる。
- 排泄ケアは、入居者が希望した時に、随時トイレ誘導、オムツ交換ができる。
- 排泄の訴えが、できない入居者に対しても、排泄のサインを見逃すことなく、トイレ誘導ができるため、オムツの着用を強いることもなく、放便、放尿を減らすことができる。
- オムツ外しを進めることができ、ADLの向上につながる。
- 個室化によりプライバシーと個性の尊重が可能であるほか、テレビの音や照明の点灯、室温管理、臭いに伴う換気などを、他の入所者を気にすることなく、自由に選択できる  
…等。

# ユニットケアの短所

- 要介護度など、入居者の状態によって、関わりに差がでるほか、自立の方に関わる時間が少なくなるため、不公平感がある。
- 入居者同士の相性が合わない場合、居室やユニットの変更が容易ではない。
- 入居者と職員の相性が合わない場合、仕事がやりにくく、入所者も気まずい思いをする。
- 職員ひとりひとりの介護力に、差が生じやすく、均一の介護になりにくい。
- 個室化により、居室での転倒など、死角での事故が起こりやすく、安全面に不安がある。
- 入居者の性格によっては、過剰介護になりやすく、自立支援の妨げになる場合もある。
  
- 従来ケアより人手が多くかかる。

# 個室の持つ利点

- プライバシーと個性の尊重
- テレビやラジオの音に対しての自由選択
- 照明の点灯における光の自由選択
- 温度(室温)管理の自由選択
- においに伴う換気の自由選択
- 他人への気づかいが少なく、ストレスが著しく軽減される。